

# 主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童の育成

～小学校におけるキャリア教育の推進を通して～

日南市立東郷小学校

教諭 谷口 勝義

## 目 次

I	研究主題	2-1
II	主題設定の理由	2-1
III	研究目標	2-1
IV	研究仮説	2-1
V	研究計画	2-2
VI	研究構想	2-2
VII	研究の実際	2-3
1	研究の基本的な考え方	2-3
2	キャリア教育に関する教育活動を意図的に関連付けた指導計画	2-4
3	「生き方に役立つ力」を伸ばす手立ての工夫・改善	2-11
4	「生き方教育」の実践	2-12
VIII	研究の成果と課題	2-19
1	研究の成果と課題の分析	2-19
2	研究の成果	2-20
3	研究の課題	2-20
	《引用文献・参考文献》	2-20

## I 研究主題

主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童の育成  
～小学校におけるキャリア教育の推進を通して～

## II 主題設定の理由

現在、知識基盤社会化やグローバル化が進む中、産業構造や就業構造の変化が起こり、若い世代において、ニートや早期離職などの社会問題が指摘されている。また、情報の分野などの技術革新に起因する激しい社会の変化によって、児童をとりまく生活環境も大きく変化している。このような中、国は、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ社会人・職業人として自立していくことができるようにすることを目指している。そのために、学校教育に強く求められているのが、キャリア教育の推進である。キャリア教育は、これからを生きていく児童が学び続けたい、働き続けたいという思いを実現させていくための教育的働きかけである。

県においても、「第二次宮崎県教育振興基本計画」の施策にキャリア教育の推進が示され、これからの社会を生きる児童が、自立した一人の人間としてたくましく生きぬくことを目指している。このように、国や県のキャリア教育の推進に関する施策に基づき、小学校段階では、将来の進路選択にかかわる基盤形成の時期として、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を育てることが求められている。

本校は、平成25年度の小中一貫教育校開校に向けて、平成23年度からキャリア教育の視点を生かして教育活動を見直し、中学校教育への円滑な移行を目指した教育課程の編成と実施に努めてきた。

児童の多くは、学校全体で取り組むボランティア活動に積極的に参加したり、学校生活にも意欲的に取り組んだりしている。その一方で、活動への興味・関心があるにもかかわらず、自分がやるべきことに最後まで取り組むことができない児童もいる。また、学校内外での生活や学習において、不得意なことや苦手なことに進んで取り組むことを避けてしまう児童もいる。このような児童の実態を考慮し、主体的に行動するとともに、何事にも最後までやりぬく力を身に付けるためには、キャリア教育に学校の教育活動全体で取り組むことが必要であると考えます。

本研究では、キャリア教育の視点で、学校の教育活動を体系的に位置付けることによって、意図的に関連付けた指導計画を作成し、それを基に実践研究を進める。そして、これからを生きていく児童に身に付けさせたい力を伸ばすための手立てを工夫・改善していくことによって、主体的に行動し、やりぬく力を伸ばしていくことができると考える。また、本研究を進めることは、本校の教育目標である「思いやりの心を持ち、たくましく生きる児童の育成」の具現化を図る上でも意義深いと考え、本主題を設定した。

## III 研究目標

小学校におけるキャリア教育の推進を通して、主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童の育成を目指す。

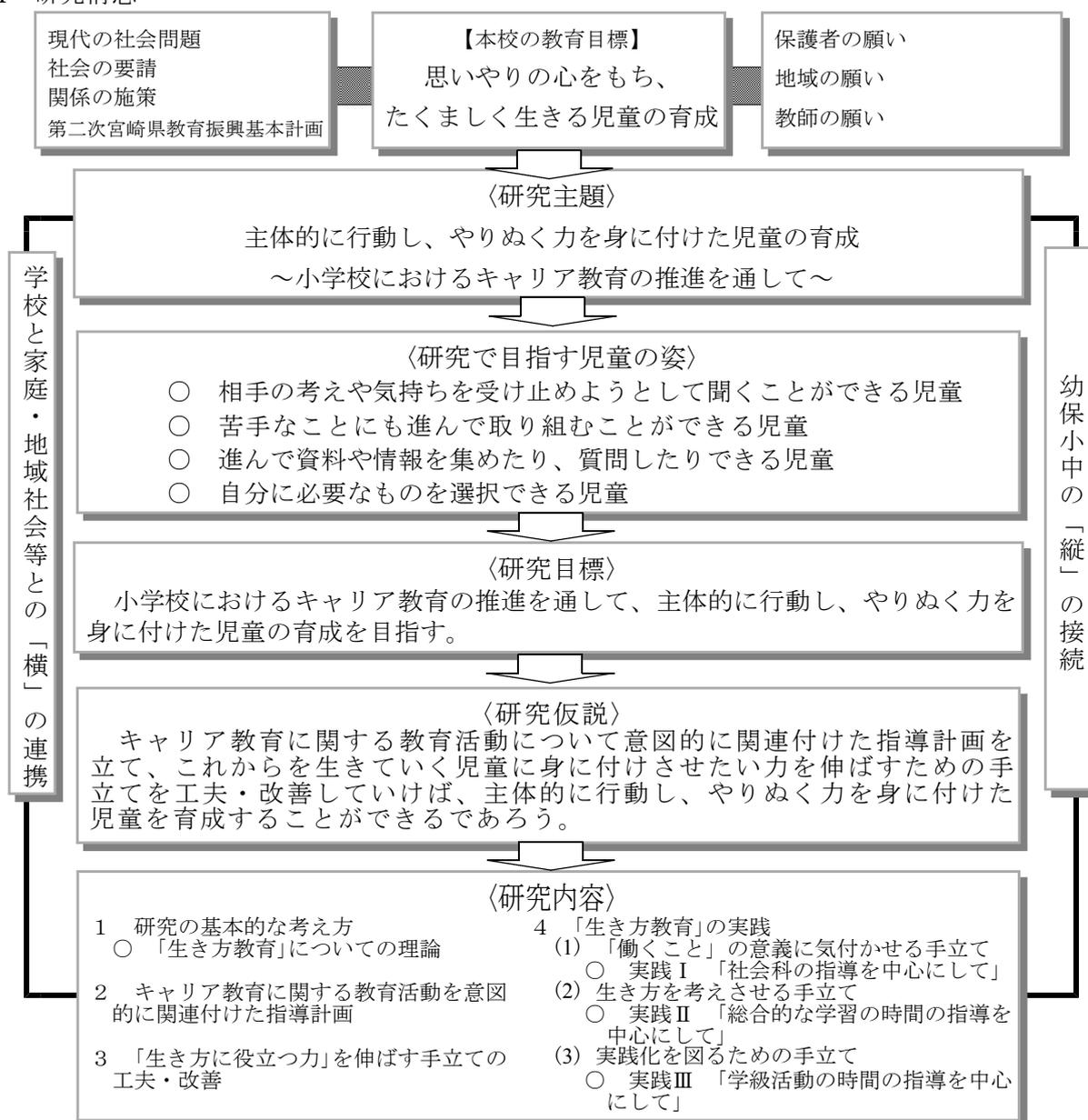
## IV 研究仮説

キャリア教育に関する教育活動について意図的に関連付けた指導計画を立て、これからを生きていく児童に身に付けさせたい力を伸ばすための手立てを工夫・改善していけば、主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童を育成することができるであろう。

## V 研究計画

月	研究内容	備考
4	研究主題・副題の設定、研究計画の設定・検討	
5	理論研究、研究内容の決定、実態調査の実施及び分析	東郷小学校
6	検証授業Ⅰの構想、検証授業Ⅰの準備	東郷小学校
7	検証授業Ⅰの実施(7月9日)、検証内容の分析と考察、研究内容の修正	東郷小学校
8	理論の再構築、グループ協議会準備、グループ協議会発表(8月27日)	
9	検証授業Ⅱの構想、検証授業Ⅱの準備	
10	検証授業Ⅱの実施(10月19日)、検証内容の分析と考察	東郷小学校
11	全体協議会発表準備、全体協議会発表(11月19日)、成果と課題の整理	
12	研究報告書の作成、研究報告書の修正	
1	研究報告書の作成、研究報告書の修正、研究のまとめ	
2	研究のまとめ、研究発表会準備	
3	研究発表会(3月11日)、研究のまとめと反省	

## VI 研究構想



## VII 研究の実際

### 1 研究の基本的な考え方

#### (1) 主題

主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童の育成 について

「主体的に行動し」とは、学校生活や学習に進んで取り組もうとする態度である。「やりぬく力」とは、困難や苦勞を乗り越え、最後まで行動できる力である。このような力や態度を身に付けた児童の育成を目指す。と捉える。

#### (2) キャリア教育

本研究におけるキャリア教育 について

本研究において、キャリア教育とは、児童に、これまでの自分に気付かせ、今の自分を考えさせ、これからの自分にいかすことを見つけさせることによって、「生き方に役立つ力」や態度を伸ばし、自己の生き方の実現を促す教育と捉えた。キャリア教育において、「生き方」に着目した実践を「生き方教育」と捉える。

#### (3) 副題

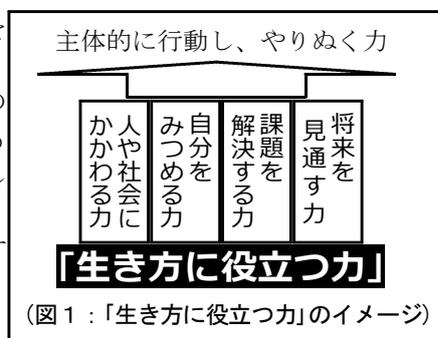
小学校におけるキャリア教育の推進を通して について

小学校におけるキャリア教育の推進を通してとは、「生き方教育」を実践していくことと捉える。

#### (4) 「生き方に役立つ力」について

本研究において「生き方に役立つ力」とは、これから生きていく児童に身に付けさせたい力と捉える。そこで、「生き方に役立つ力」をキャリア教育で育成すべき4つの力を基にして、「人や社会にかかわる力」「自分を見つめる力」「課題を解決する力」「将来を見通す力」の4つを設定した。(図1)

「生き方教育」の視点とも捉えるこの4つの力を伸ばすことによって、研究主題である「主体的に行動し、やりぬく力の育成」に迫ることとする。



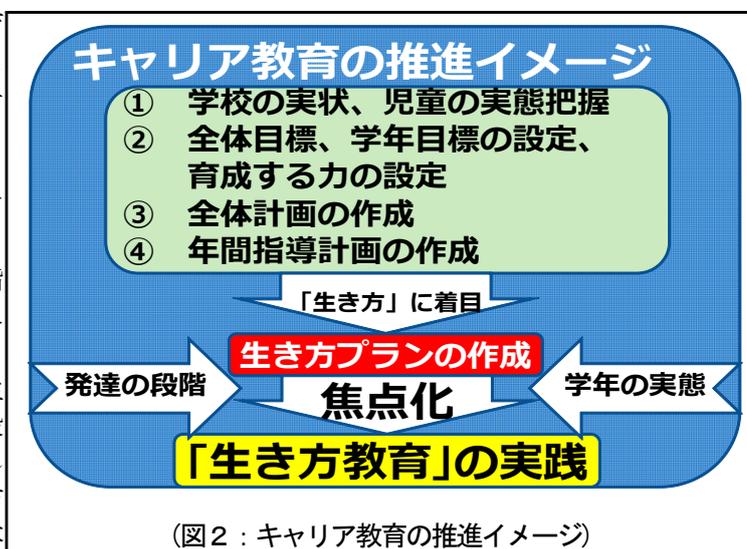
(図1 : 「生き方に役立つ力」のイメージ)

#### (5) キャリア教育の推進について

小学校におけるキャリア教育の推進の流れを右の(図2)のような「キャリア教育の推進イメージ」にまとめた。

この流れを全職員が共通理解、共同実践していくことによってキャリア教育を推進していく。

また、キャリア教育の年間指導計画の作成の後、「生き方」に着目した指導計画である「生き方プラン」を作成する。その「生き方プラン」を基に、発達の段階を考慮し、学年の実態に応じた教育活動を焦点化し、「生き方教育」を実践していくことが、本

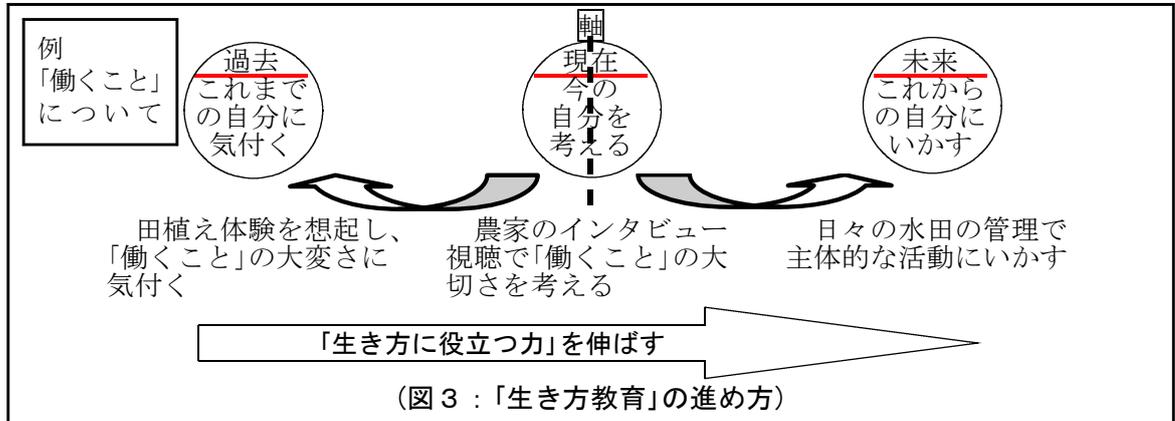


(図2 : キャリア教育の推進イメージ)

研究におけるキャリア教育の推進と考える。

(6) 「生き方教育」の進め方について

「生き方教育」において、児童が、これまでの自分の生き方に気付き、今の自分の生き方を考えることによって、これからの自分の生き方にいかすことができるようになる仕組みで進める。この仕組みにそって、「生き方に役立つ力」を伸ばすために、「生き方」に関連させた教育活動を展開していく。この仕組みの例について、以下の(図3)に示す。



(7) 研究で目指す児童の姿との関連について

「生き方に役立つ力」の実態を把握するために、全児童を対象にして、5月にキャリア教育アンケートを実施した。その結果[p 2-6 表2]や生き方に役立つ4つの力を基に、「生き方教育」で目指す児童の姿として、以下の4つを設定した。本研究で生き方に役立つ4つの力を伸ばすことによって、目指す児童の姿の具現化を図り、研究主題である「主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童の育成」に迫ることとする。

- 人や社会にかかわる力…相手の考えや気持ちを受け止めながら聞くことができる児童
- 自分をみつめる力………苦手なことにも進んで取り組むことができる児童
- 課題を解決する力………進んで資料や情報を集めたり、質問したりできる児童
- 将来を見通す力………自分に必要なものを選択できる児童

(8) 「生き方教育」の評価について

「生き方教育」の評価は、(表1)に示すような評価の項目を設定して行う。そのために、「生き方教育」を取り入れた教育活動において、「生き方教育」の視点に基づいて、評価の項目を設定する。(表1)は、第5学年における具体的な教科・領域等の評価の項目の例示である。

「生き方教育」の視点	評価の項目(教科・領域等)
人や社会にかかわる力を育てること	友達と自分の発表の違いを考えることができる(総合的な学習の時間)
自分をみつめる力を育てること	自分を振り返り、生き方にいかすことができる(総合的な学習の時間)
課題を解決する力を育てること	自分の役割の課題を見つけ、解決することができる(学級活動)
将来を見通す力を育てること	日本の生活や米づくりの未来について考えることができる(社会科)

(表1 : 第5学年における評価の項目の例示)

2 キャリア教育に関する教育活動を意図的に関連付けた指導計画

(1) 「生き方プラン」について

「生き方プラン」とは、キャリア教育に関する教育活動を「生き方」に着目することによって、意図的に関連付けた指導計画のことである。本研究において、「生き方教育」を実践するために、各学年における「生き方プラン」を立てた。

[p 2-5資料1]は、第5学年の「生き方プラン」の例である。第5学年では、「生き方プラン」を基にして、「働くこと」に焦点化した教育活動から「生き方」を考えさせる「生き方教育」を実践していく。

特に、小学校では学級担任のかかわりが大きいので、「生き方プラン」を基にして発達の段階を考慮し、学年の実態に応じた教育活動を焦点化し、「生き方教育」を実践していくことが効果的であると考えられる。

小学校における生き方プラン(第5学年)													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3(月)
生き方に役立つ力	将来を見通す力		社会：農業				社会：水産業					道徳：働くこと	
	課題を解決する力	総合：米作りの課題を作ろう	家庭：家庭の仕事を探そう		総合：稲刈り体験			総合：漁師の生き方から学ぶ		総合：米の秘密を探ろう			
	自分をみつめる力	学活：新学年の抱負	道徳：個性伸長		道徳：役割・責任			学級活動：働くこと		道徳：役割・責任			国語：伝記「手塚治虫」
	人や社会にかかわる力	国語：ゲストを紹介しよう	体育：ゲーム		国語：立場を明確にして					体育：ゲーム	体育：ゲーム		家庭：楽しい団らん
		外国語活動：挨拶、ジェスチャー	行事：集団宿泊学習		総合：米をアピールしよう								

(資料1：第5学年「生き方プラン」)

「生き方プラン」は、あくまで指導計画であり、焦点化して生き方教育を取り入れた教育活動を実践していくことが効果的であると考えます。

(2) 「生き方プラン」の立て方

[p 2-3 図2]の「キャリア教育の推進イメージ」を基に、以下の①から④の取組を全職員で協力して行う。

「生き方教育」を実践するために、生き方に着目した指導計画として各学年の「生き方プラン」を立てた。その立て方と実践までの手順を以下に記す。

ア 生き方プランの立て方と実践までの手順

① 学校の教育目標、学校経営方針を基本にして、キャリア教育の目標を考える。

② 学校の実情、児童のアンケート調査などから実態把握と分析を行う。

※ 実態把握と分析についての実際は、[p 2-6 表2]で紹介する。

③ 学校のキャリア教育の目標、目指す児童の姿を設定する。  
同様に、各学年のキャリア教育の目標、目指す児童の姿を設定する。

④ 学校のキャリア教育の全体計画、各学年のキャリア教育の年間指導計画を作成する。

※ 実際は、全体計画[p 2-7 表3]と指導計画[p 2-8 表5]で紹介する。

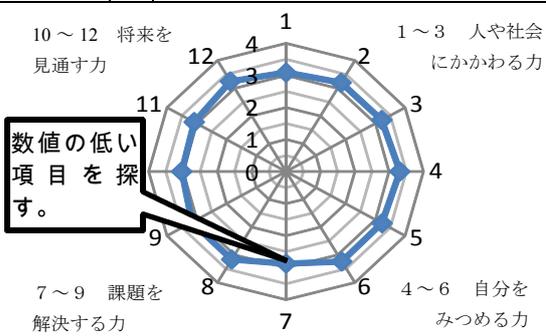
⑤ 学年ごとに、「生き方」に着目した具体的な観点[p 2-9 表6]をいかし、教育活動を洗い出すことによって「生き方プラン」を立てる。

⑥ 学年ごとに、「生き方プラン」に基づいて、発達の段階や児童の実態に合わせた観点を絞る[p 2-9 表7]。その観点到意図的に関連付けさせた教育活動を実践する。

イ キャリア教育アンケート調査からの実態把握と分析

小学校におけるキャリア教育に対する実態を把握するために、毎年、年度当初に全児童を対象にアンケート調査を行うようにし、このアンケート結果(表2)を用いる。

キャリア教育アンケート (全児童対象) 4:いつもしている 3:時々している 2:あまりしていない 1:ほとんどしてしない				
生き方に役立つ力	内容		平均値	関連する能力
人や社会にかかわる力	①	友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	3.09	他者の個性を理解する力
	②	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	3.20	他者に働きかける力
	③	自分から役割や仕事をつくらしたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	3.22	リーダーシップ、チームワーク
自分をみつめる力	④	自分の興味や関心、長所や短所などについて、理解しようとしていますか。	3.31	前向きに考える力
	⑤	気持ちが落ちこんでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	3.22	ストレスマネジメント
	⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	3.24	忍耐力、主体的行動
課題を解決する力	⑦	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を集めたり、だれかに質問をしたりしていますか。	2.87	情報の理解・選択・処理等
	⑧	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	3.17	原因の追究、課題発見、実行力
	⑨	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	3.16	計画立案、評価・改善
将来を見通す力	⑩	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	3.04	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
	⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法に	3.09	将来設計、選択
	⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫	3.25	行動と改善



**分析・考察**  
 本校の傾向として、他の能力に比べて「情報の理解・選択・処理等」の数値が低い。また、「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」や「多様性の理解」についても数値が低い。  
 特に、「情報の理解・選択・処理等」に科・生活科・総合的な学習の時間等の中で手段を主体的に選択し活用する力を身に意図的に設定することが必要である。また、今の学年で学んでいることをしっかりと定着させることが、学習意欲の向上へとつながり、ひいては、自分の将来にもつながっていくことを理解させていく必要がある。

**具体的な課題や必要な取組などを記す。**

**全職員で分析・考察を行う。**

(表2:「キャリア教育アンケート」結果 5月実施)

ウ キャリア教育の目標、目指す児童の姿の設定

上の(表2)のキャリア教育アンケート結果の分析を各学年で行い、(表2)の分析・考察のように、各学年の具体的な課題を明確にする。また、各学年の目標は、具体的な言葉で表す。(中学年の目標の例:自己や他者の考え・立場を理解し、協力して活動する中で、役割が自覚でき、自らが行うべきことに意欲的に取り組めるようにする。)

エ キャリア教育の全体計画の作成

[p 2-7 表3]の全体計画例のように、児童の実態などから、学校全体として、重点的に指導する能力や各学年の目標を記し、全体計画に位置付ける。それを夏季休業中に行うことにした。中学校への接続を図るために、本研究と並行して、東郷小学校・中学校合同研修において、小中合同の全体計画を作成した。[p 2-7 表3]のなかに、留意点を吹き出しに記し、全体計画の作成の意図を明確にするようにした。

東郷小・東郷中学校 キャリア教育全体計画例

- ・関係法令
  - ・学習指導要領
  - ・第二次宮崎県教育振興基本計画
  - ・市の教育基本方針
- 学校の教育目標  
 中：豊かな心、自ら学ぶ意欲、健康でたくましく生きる力を持った生徒の育成  
 小：思いやりの心を持ち、たくましく生きる力の育成
- ・地域の実態
  - ・学校の実態
  - ・児童生徒の実態

**小学校のみの実態**  
 小学校全体の傾向として「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」の数値が低い。今の学年で学んでいることをしっかりと定着させることが、学習意欲の向上へとつながり、ひいては自分の将来にもつながっていくことを理解させていく必要がある。

**小・中学校全体の实態**  
 小・中学校全体の傾向として、他の能力に比べ「情報の理解・選択・処理等」と「計画立案 評価・改善」の数値が低い。特に、「情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力」を育成する必要がある。

**目指す児童生徒像**  
 ○自ら学ぼうとする意欲と向上心の旺盛な児童・生徒  
 ○思いやりと感謝の心をもつ児童・生徒  
 ○健康で、気力、体力に満ちた児童・生徒

**キャリア教育の目標**  
 ○計画的、自主的に学習に励む児童・生徒  
 ○あいさつができ、礼儀正しい児童・生徒  
 ○目標をもち、実現のために努力する児童・生徒

各学年の目標					身に付けさせたい能力や態度を具体的な言葉で表す。
低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)	中学生(1年)	3年)	
自分の得意なことや得意な活動を知り、意欲を高めるようにする。	自己や他者の考え・立場を理解し、協力して活動する中で、役割が自覚でき、自ら積極的に取り組むようになる。	苦手なことや初めて挑戦することに失敗を恐れず、力を高め課題を立て、その課題を解決する。	生活や将来の生き方と関連する、自己の考えや生活態度を育む。	全活動の導入段階において、目標を明確にし、目標達成のための手立てを考え、振り返り次の活動へつなげる。	生活や学習の関連をもとに、職業的な役割や生き方を理解し、自ら意欲を持って取り組むようになる。

重点的に指導する能力に◎や下線をつけ強調する。

本年度、重点的に指導する能力に◎を付ける。

	『人間関係形成・社会形成能力』	『自己理解・自己管理能力』	◎『課題対応能力』	『キャリアプランニング能力』
	他者の個性を理解する力 他者に働きかける力 コミュニケーションスキル チームワーク リーダーシップ	自己の役割の理解 前向きに考える力 自己の動機付け ストレスマネジメント 主体的行動 忍耐力	◎情報の理解・選択・処理等 本質の理解原因の追究 課題発見 ◎計画立案 実行力 ◎評価・改善	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 多様性の理解 将来設計 選択 行動・改善
各教科	・聞く、話す、話し合 いを中心にコミュニケーションを育てる。	・自分の考えを絶えず見直し、検討する態度を育てる。 ・ <u>不得意・苦手なことややる気が起きないことに粘り強く取り組ませる。(中3)</u>	・基礎基本の力を身に付け学ぶ意欲を高める。 ・課題解決学習の方法(やり方)を身に付け、達成感を育てる。 ・ <u>課題に粘り強く最後まで取り組む態度を育てる。(中1・3)</u>	・めあてをもって、主体的・計画的に学習に取り組む力 <b>目標に応じて具体的な手立てについて追記していく。</b>
道徳	・思いやりの心を持ち互いに信頼し協力し合おうとする態度を養う。	・自分の特徴を知り、よいところを積極的に伸ばそうとする意欲を高める。 ・ <u>最後まで粘り強く取り組む態度を養う。(中3)</u>	・明るく誠実に行動しようとする態度を養う。	・自分でできることよ いは自分で行い、生活や生き方を目指して自らの課題に取り組む態度を育る。
学級活動 学校行事	・体験的な活動を行い全校及び学年集団への所属感を深めさせる。	・集団の中で、自己管理ができる力をつける。	・自ら企画立案する場面を設定し、それを評価改善する手立てをとる。(中1)	・自分の役割やより責任を果たし、人の役に立つ喜びを実感させる。
総合的な学習の時間	・自然体験や社会体験を重視し豊かな感性と表現力を育てる。	・他者との関わりを通して、自分の思考や感情をコントロールしながら進んで学ぼうとする力を育てる。	・自ら課題を見付け主体的に判断し、問題を解決する力を育てる。	・いろいろな職業に携わる人々とのかかわりを通して働くことの意義や大切さを理解させる。
諸教育活動	・開かれた学校づくりをすすめる。 ・学校生活をよりよくするための基本的習慣や行動力を身に付け、人間尊重の自覚を深めさせる。	・開かれた学校づくりをすすめる、家庭や地域社会との連携を深め、学校生活をよりよくするための基本的習慣や行動力を身に付け、人間尊重の自覚を深めさせる、真に基本的人権を尊重する人間	<b>キャリア教育推進のための基盤となる内容を入れる。</b>	

**キャリア教育推進のための基盤**  
 ○ 指導手法に関すること ○ 生活や学習の習慣・ルールに関すること  
 ○ 人権教育の視点を生かした指導 ○ 生徒指導の機能を生かした指導  
 ○ 保護者・地域の理解と協力、教職員の理解と必要性、保護者・地域への啓発促進

キャリア教育の年間指導計画 (年間・学期・月・週)

(表3：キャリア教育全体計画例)

オ キャリア教育の指導計画の作成  
 ここで、教育活動全体をキャリア教育の視点で見直し、各学年の年間指導計画に位置付

ける手順(例)を紹介する。

① 学校行事全体の年間指導計画(学校行事のねらいや活動内容など)から、「生き方に役立つ力」を見直す。(表4)

③ 各学年の目標に基づいて、重点となる教科等を定める。

③ 各学年の年間指導計画からキャリア教育の中核となりえる内容等や体験活動の存在を見出す。(例：下線朱書きを入れる。)

④ キャリア教育を支える基盤づくりとして学年・学級の取組の欄を設け、幼保小中の「縦の接続」や地域・企業等の支援の「横の連携」についての取組を見出す。

キャリア教育の関連する学校行事全体の年間指導計画				平成23年度			☆ キャリア教育の基礎的・汎用的能力			
目標	行事名	行事種別	参加学年	ねらい	めざす児童像具現化	人	自	課	キ	
学校行事に進んで参加させ、目標達成に向けた活動を通して、望ましい実践力を育てる。				キャリア教育との関連に下線を入れ、意識する。	に、全校及び学年集回への所属感を深める。合わせて豊かな学校生活を送ろうとする態度と	やさしい子	考える子	たくましい子	人 自 課 キ	
4	新任式・始業式	儀式	2～6年	○ 新しく赴任された先生方とあいさつを交わすことで、顔と名前を覚え、親しみをもって接することができるようにする。 ○ 進級の喜びを感じさせ、新学年の希望をもち、楽しい学校生活を送ろうとする意欲を育てる。					人 自 課 キ	
4	大掃除	勤労・奉仕	全学年	○ 校舎内外の清掃によって環境を整え、清潔な学校生活を送る態度を育てる。					人 自 課 キ	
4	入学式	儀式	全学年	○ 学校生活の出発を祝い、全校児童が一つになって、新しい仲間を迎え入れる気持ちを高めるようにする。 ○ 学校の素晴らしさを感じさせることで、新入生の学校生活への期待が膨らむようにする。	○	○			人 自 課 キ	
4	交通安全教室	健康・体育	全学年	○ 交通安全の重要性を認識させるとともに、交通事故から身を守るために適切な行動をとるようとする実践的な態度を身につけさせる。		○	○		人 自 課 キ	

(表4：キャリア教育の関連する学校行事全体の年間指導計画の見直し)

キャリア教育の年間指導計画(第1学年)				重点(生活科+特別活動)		重点を明記する。
時期	各教科	道徳	生活科	特別活動	学年・学級の取組	
4月			がっこうのいちにちをしりたいな『人』	うれい1年生『自』	希望や目標をもって生える態度	
5月		5月 1-(1)基本的な生活習慣	ともちをいっいづくる『人』	(1) イ そろじの仕方『キ』	仕事の分担処理など日常生活や日常的な取組等に関連する事	
	国語 5月 みんなにつたえよう『人』		がっこうたんけんにしゅっぱつだ『人』『キ』	(2) エ 係り当番を決めよう『キ』		
6月	体育 6月 鬼遊び『人』			(1) イ やくそくを守る(人)『自』	掃除週間『キ』	
	体育 6月 ボールゲーム『人』					
7月	図工 7月 おってたててゆめのまち『キ』		たのしかったことをつたえよう『人』	(1) イ 整理整頓の名人になる『キ』		
	図工 7月 おってたててゆめのまち『キ』	7月 4-(2)勤労『キ』		(2) ウ 望ましい人間関係の形成 5～7月 日南コミュニケーションズキルプログラム(20時間) あいさつ上手になる『人』	家庭や地域の人々との連携、社会教育施設との連携	

(表5：第1学年キャリア教育の年間指導計画例)

カ 「生き方」に着目した具体的な観点

各学年のキャリア教育の年間指導計画[p 2-8 表5]を作成した後に、「生き方教育」として具体的な共同実践を図るためには、「生き方」に着目した具体的な観点を明確にする必要があると考えた。そこで、「生き方に役立つ力」に応じた、「生き方」に着目した具体的な観点を以下に記す。

各学年のキャリア教育の年間指導計画のなかから、以下の観点を教育活動を洗い出し、「生き方に役立つ力」に整理し直すことによって「生き方プラン」を立てる。

「生き方に役立つ力」	「生き方」に着目した具体的な観点
人や社会にかかわる力	人・集団・地域とかかわる。
自分をみつめる力	自分を振り返る。役割を理解する。夢・希望をもつ。
課題を解決する力	課題に挑戦する。課題を探究する。
将来を見通す力	「働くこと」に気付き、理解する。将来への選択を考える。

(表6: 「生き方」に着目した具体的な観点)

キ 発達の段階を考慮し、「生き方」に着目した構想

「生き方」に着目する際に、発達の段階を重視する必要がある。特に、「生き方」に対する小学校段階の児童の捉え方を明確にして「生き方プラン」を立てるようにした。加えて、中学校への接続も考慮する必要がある。

そのために、右の(図4)の段階(例)を設定し、各学年の「生き方プラン」に反映させるようにした。

また、この構想によって、系統的に「生き方教育」を実践できるようにし、「生き方に役立つ力」を伸ばそうと考えた。

実際の詳細は、次のページ(3)で示す。



ク 各学年で焦点化した具体的な観点と教育活動の例

発達の段階を考慮し、各学年の児童の実態に合わせた具体的な観点を絞る必要がある。そこで、その観点对応した教育活動の具体的な例を(表7)に示す。このように焦点化した教育活動を中心に「生き方教育」を実践していくことになる。

学年	学年に応じて焦点化した具体的な観点	教育活動の例
1年	人や社会にかかわる力を伸ばそう 社会への適応 入学	幼稚園・保育園との交流
2年	「働くこと」 生活科で自分を振り返る	まち探検
3年	チャレンジする 課題の解決	店見学、農家の仕事、さとねり体験
4年	人・集団・地域とかかわり	福祉体験学習、特別支援学校との交流
5年	「働くこと」 生き方イメージの獲得、基礎づくり	農業米づくり、水産業
6年	夢・希望をもつ、将来への展望 将来の姿の具体化	修学旅行、運動会

(表7: 各学年で焦点化した具体的な観点と教育活動の例)

(3) 「生き方教育」の進め方の実際

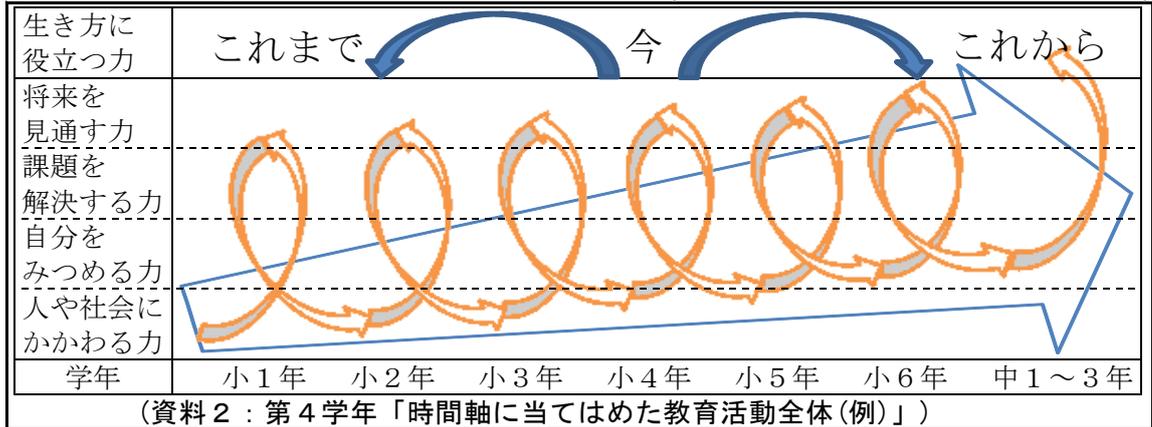
「生き方教育」は、「生き方プラン」を基に、焦点化した教育活動を意図的に関連させて実践していく。加えて、[p 24 図3]の仕組みで、「生き方教育」を進める。児童が、これまでの自分の生き方に気付き、今の自分の生き方を考えることによって、これからの自分の生き方にいかすことができるようになる仕組みである。

そこで、この仕組みを時間軸に当てはめた実際の進め方の例を以下に示す。

ア 時間軸に当てはめた教育活動全体(例)

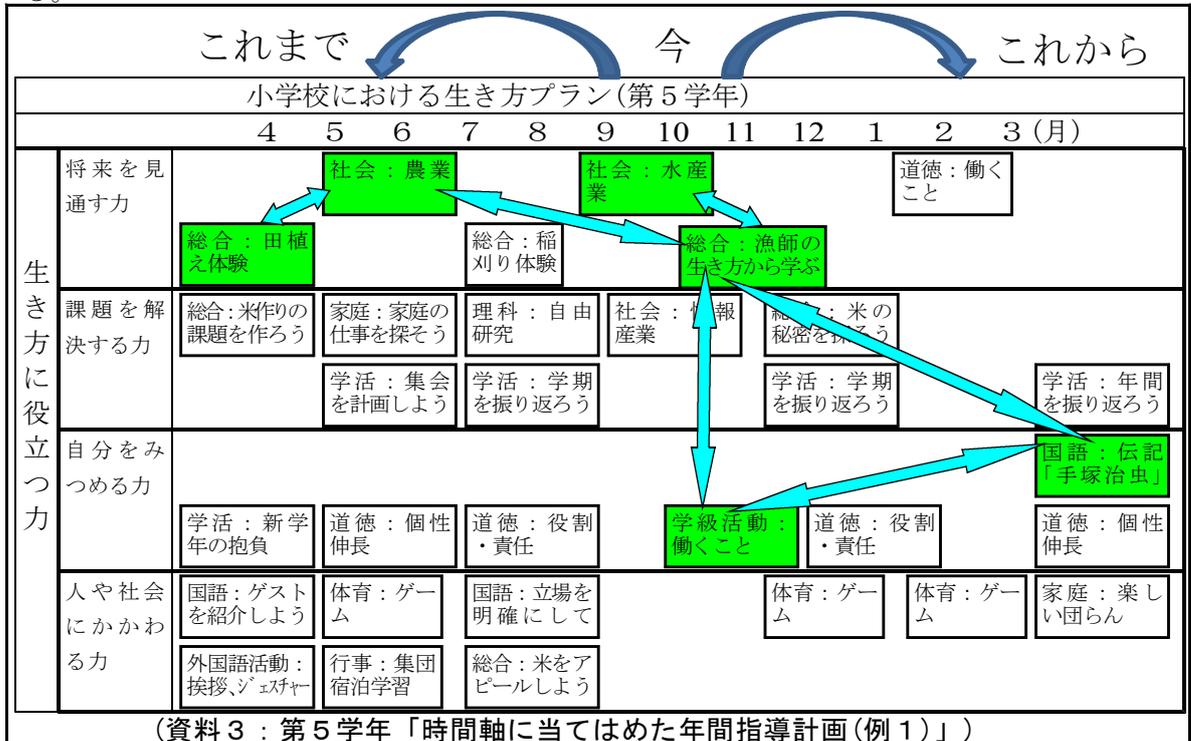
「生き方教育」は、全校、全学年、全教育活動を通して実施していく必要がある。そのため、1つの学年だけで実施するのではなく、教育活動全体において、学年が進むにつれて、スパイラル的に「生き方に役立つ力」を伸ばすことができるようにする。

また、該当学年に時間軸の今を置くことによって、これまでの学年で学んだことに気付かせ、これからの学年でいかすことができるようにする。つまり、学年間をつなぐことである。



イ 時間軸に当てはめた年間指導計画(例)

「生き方プラン」を基に、焦点化した教育活動を時間軸の今に位置付けて、これまでの学習とこれからの学習に意図的に関連させて実践していく。つまり、教育活動同士をつなぐことである。焦点化された教育活動同士をつなぐことで、「生き方教育」が、充実していくと考える。



また、これまで各教科・領域等で学んだ学習内容をつなぐことによって、「生き方教育」を充実させることが可能である。すなわち、全教育活動を通して、この「生き方教育」の進め方をいかしていくということである。例えば、時間軸の今を「総合的な学習の時間：米をアピ

ールしよう」に位置付け、これまでの国語科の学習で相手への話し方を身に付け、米のアピールの仕方に役立てることができないかを考えたり、これからの社会科の情報産業の学習で、放送の方法などをいかそうとしたりして、有機的に関連させて実践できる。

		これまで ← 今 → これから											
		小学校における生き方プラン(第5学年)											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3(月)
生き方に役立つ力	将来を見通す力		社会：農業				社会：水産業					道徳：働くこと	
	課題を解決する力	総合：米作りの課題を作ろう	家庭：家庭の仕事を探そう		総合：稲刈り体験		総合：漁師の生き方から学ぶ			総合：米の秘密を探ろう			
	自分をみつめる力	学活：新学年の抱負	道徳：個性伸長		道徳：役割・責任			学級活動：働くこと	道徳：役割・責任				国語：伝記「手塚治虫」
	人や社会にかかわる力	国語：ゲストを紹介しよう	体育：ゲーム		国語：立場を明確にして				体育：ゲーム	体育：ゲーム		家庭：楽しい団らん	
		外国語活動：挨拶、ジェスチャー	行事：集団宿泊学習		総合：米をアピールしよう								

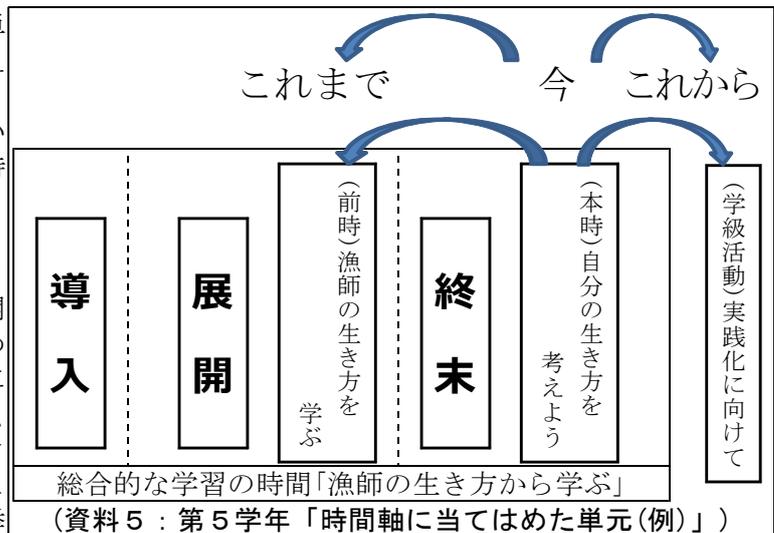
(資料4：第5学年「時間軸に当てはめた年間指導計画(例2)」)

ウ 時間軸に当てはめた単元(例)

「生き方教育」の進め方は、単元においても有効であると考えられる。

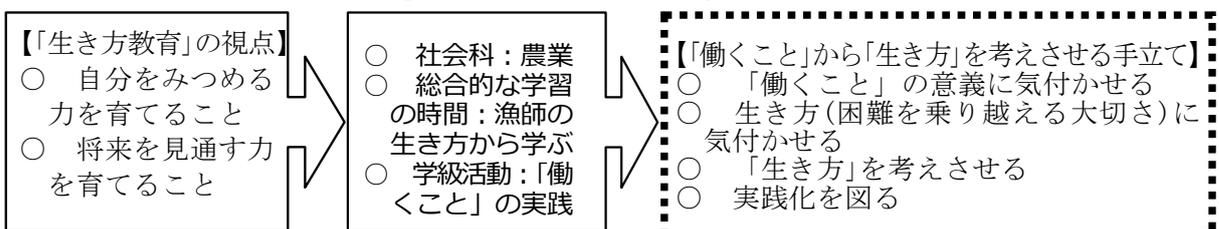
各教科・領域等の学習において、既習事項を想起させ、本時の学習にいかしていくことは、これまでも行われてきた。

本研究では、「生き方」に着目することによって、単元の展開においても「生き方教育」の進め方で前時の学習を本時の学習にいかすことが有効である。また、ほかの教科・領域等にも「生き方教育」の進め方をつなげることができるというメリットが挙げられる。



3 「生き方に役立つ力」を伸ばす手立ての工夫・改善

第5学年の「生き方プラン」に基づいて、「働くこと」に焦点化した教育活動から「生き方」を考えさせる手立てを見出す。[p 2-9 表7]の教育活動の例などを「働くこと」と「生き方」に関連した「生き方教育」の2つの視点で見直すことによって、具体的な手立てを設定する。次のページから、具体的な「生き方教育」の実践について述べる。



4 「生き方教育」の実践

(1) 「働くこと」の意義に気付かせる手立て～実践Ⅰ 「社会科の指導を中心にして」～  
体験活動や教科・領域等のなかにある「働くこと」を関連させ、「生き方教育」を取り入れること  
によって、「働くこと」の意義に気付かせることができる。と考える。

ア 「働くこと」を実体験させる

第5学年総合的な学習の時間に田植えの直接体験(写真1)を行った。この田植え体験は、勤労の大切さを知り、今後の稲作学習への意欲を高めることをねらった。田植えでは、JA東郷の方に苗の植え方を教えてもらい、水田に足をめり込ませながらも熱心に田植えをしていく児童の姿が見られた。

この田植え体験を通して、児童に「働くこと」の大変さを実感させることができた。



(写真1：田植え体験)

これまで

イ 「働くこと」の意義に気付かせる「生き方教育」の実践Ⅰのつながり…活動①～③

活動①	総合的な学習の時間での体験活動 4月 田植えの直接体験
-----	--------------------------------

つなぐ

今

活動②	<p><b>「生き方教育」を取り入れた社会科の指導 7月9日(検証授業Ⅰ)</b></p> <p>1 単元名 米づくりのさかんな庄内平野</p> <p>2 本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の米づくりを元気にする提案を考え、表現することができる。 【社会的な思考・判断・表現】</li> </ul> <p>3 「生き方教育」の視点…将来を見通す力を育てること</p> <p>4 手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童自らが米づくりを体験したことを想起させる。</li> <li>○ 農家のインタビュー(写真2)を視聴させ「働く人」の思いや願いに共感させる。</li> <li>○ 農業高校の生徒のインターンシップの写真を見せ、農家の「後継者育成」に気付かせる。</li> <li>○ KJ法的手法を用いて意思決定の場を設ける。</li> </ul> <p>5 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 米づくりの提案を全員が書くことができ、社会科学習の目標を達成することに役立った。</li> <li>○ 米づくりの未来への思いが高まった。</li> </ul>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



(写真2：農家のインタビュー視聴)

つなぐ

これから

活動③	総合的な学習の時間での関連学習 7月 日之影の水土里ネットを活用した学習
-----	-----------------------------------------

ウ 「働くこと」に意欲をもたせる

「生き方教育」を取り入れた教育活動の充実を図るために、「みやぎの教育」アシスト事業を活用した企業等との「横の連携」として日之影の水土里ネットを活用した学習(写真3)を実施した。総合的な学習の時間において、米づくりに欠かせない農地や水の大切さについて理解を深めることをねらった。

実際に働いている方の具体的な話を聞いたことで、日々の水田の水の管理や観察に主体的に取り組む児童の姿が見られた。



(写真3：水土里ネット)

エ 実践Ⅰの評価

評価の項目…『日本の生活や米づくりの未来について考えることができる』  
児童の具体的な感想は、以下の通り(抜粋)である。

- もっと米を食べてもらったり、作る人を増やしたりするためのアイデアを考えました。
- 今日は、米づくりの勉強で短冊に生産量・消費量がどうしたら増えるか考えたことを書いたのでよかった。

全児童の感想のうち、この評価の項目に関連した記述が、約7割を占めていた。

オ 実践Ⅰの考察 (○…成果、●…課題)

- 米づくりの提案を全員が書くことができたということは、本時の手立てが、社会科学学習の目標達成を果たすとともに「働くこと」の大切さを理解する上でも有効であった。
- 米をつくることや「働くこと」が、日本の未来を支えていることに気が付くことができたということは、「将来を見通す力」の育成に役立った。
- 学んだことを生かして日々の実践に意欲的に取り組むようになり、主体的に行動しようとする児童の姿が見られるようになった。
- やりぬく力を伸ばすためには、児童の振り返る機会を設定し、困難を乗り越える大切さに気付かせる必要がある。

(2) 生き方を考えさせる手立て～実践Ⅱ 「総合的な学習の時間の指導を中心にして」～

実践Ⅰの考察からも、困難を乗り越える大切さに気付かせる手立てが必要であった。特に、生き方を考えさせる手立てのなかで、児童に自分を振り返る機会を与え、これまでの自分の生き方に気付かせるようにした。

ア 生き方を語る人材の探し方

地域との「横の連携」を重視し、かつお漁の漁師として生き方を語ることができる人材を①～③の順に紹介を受け、探し出した。

- ①日南市水産林政課 → ②南郷漁協 → ③かつお漁の漁師



(写真4：漁師のインタビュー視聴)

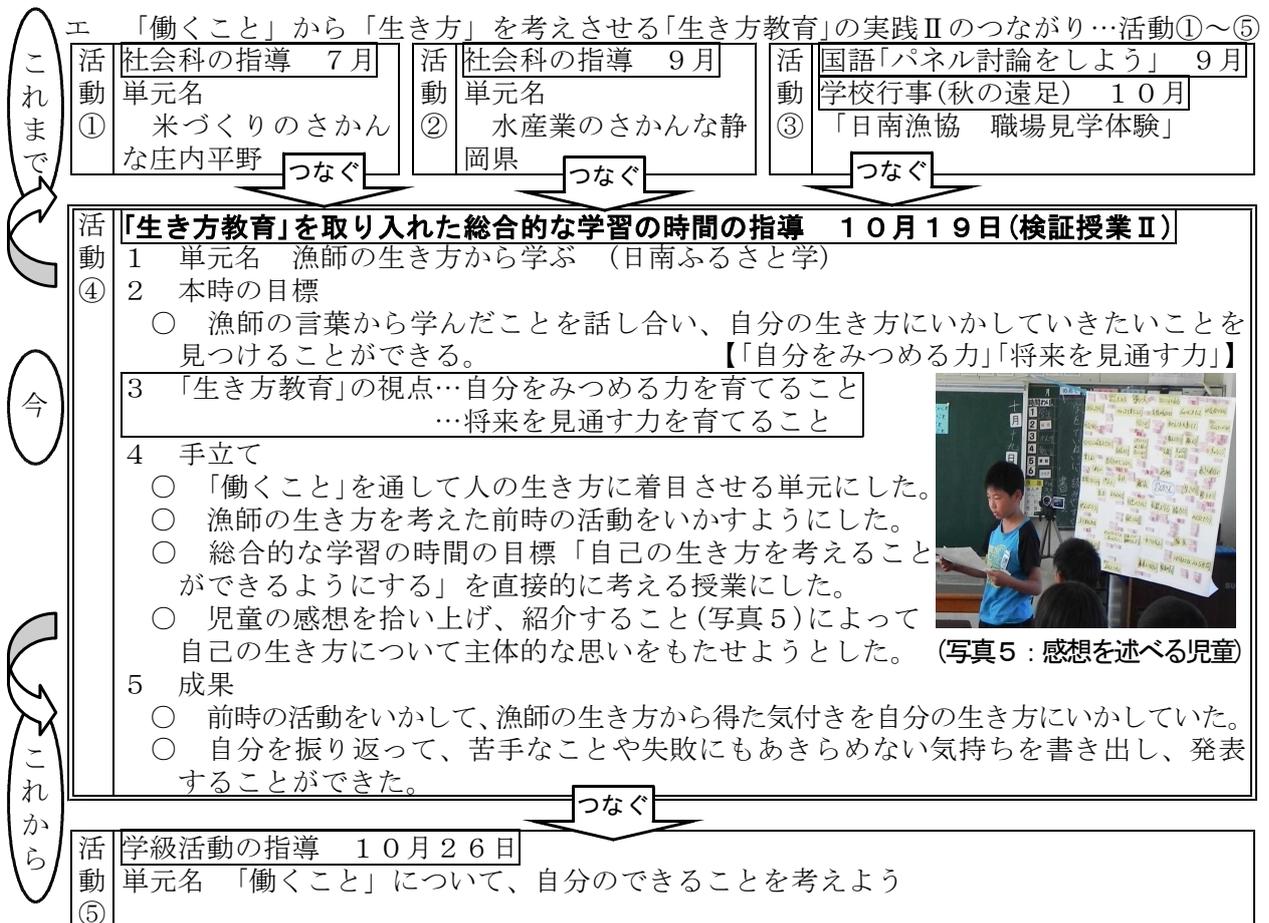
イ 人材との打合せ内容

「自分を見つめる力を育てること」と「将来を見通す力を育てること」を視点にした話にするために、人材である漁師に学習の意図を説明した。

そこで、職業についての話よりも漁師としての生き方の話になるように打ち合わせた。具体的には、「働くこと」の苦勞、苦勞を乗り越えた喜び、船長としての責任などの内容である。

ウ 生き方を考えさせる単元の工夫

「生き方教育」の視点を単元に当て、単元全体を工夫・改善することにした。以下の実践Ⅱの活動④は、全10時間の単元の終末として、直接的に「自己の生き方を考えること」にした。



オ 生き方に気付かせ、考えさせる単元の工夫

「生き方教育」の視点をいかして、単元全体を工夫・改善し、「働くこと」を通して人の生き方に着目させる単元にした。以下の生き方教育の実践Ⅱの活動④では、全10時間の単元の終末を直接的に「自己の生き方を考えること」にした。

ここで、生き方教育を取り入れた総合的な学習の時間にした展開(右)をこれまでのふるさと学としての指導展開例(左)と比較し、下に示す。

これまでの日南ふるさと学 指導展開例	生き方教育を取り入れた 総合的な学習の時間にした展開
<p>1 テーマ かつお漁のひみつを探ろう【漁業】 ～ 現地インタビューをとおして ～</p>	<p>1 単元名 ～ 漁師の生き方から学ぶ ～</p>
<p>2 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近海かつお一本釣り漁獲量日本一の宮崎県の中でも、水揚げの多い日南市のかつお漁について意欲的に調べようすることができる。【関心・意欲・態度】</li> <li>○ かつお漁の方法やかつお漁師の苦労・工夫、水揚げしたかつおの消費地やかつおの調理法等について調べることができる。【問題解決力】</li> <li>○ 調べたことを工夫してまとめ、分かりやすく発表することができる。【表現力】</li> <li>○ 生鮮かつお漁では、日南が全国でも有数の水揚げ高を誇っているということやそれを支えている漁師の苦労・工夫などを調べる活動をとおして郷土を愛する心をもつことができる。【郷土愛】</li> </ul>	<p>2 単元の目標</p> <p>身近な日南の漁師の<b>仕事に対する思いや生き方にふれる活動を通して</b>、仕事に従事することの現状と問題を理解するとともに、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることができる。</p>
<p>3 指導展開例(全10時間) <b>見つける・見通す(2時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日南の漁業について知っていることを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会科「水産業」を学習していれば、かつお漁について振り返らせる。</li> </ul> </li> <li>② かつお漁について、知っていることや疑問点、詳しく調べてみたいことなどから自分の課題を考えさせる。</li> <li>③ 近海かつお一本釣り漁獲量のグラフを見せ、宮崎県が日本一であることを知らせることで、日南市のかつお漁についても意欲をもたせる。</li> </ul>	<p>3 単元の指導計画(全10時間) <b>見つける・見通す(3時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日南市の主幹産業としても誇りである<b>漁業に従事する人々の苦労や工夫、問題点について意欲的に考えることができるようにし、日南市を誇れる心の育成につなげる。</b></li> <li>② <b>各教科でのこれまでの学習を振り返らせ「働くこと」について学んできた内容が繋がっていることを意識させる。</b></li> </ul>
<p><b>追究する・まとめる(6時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「かつお漁」について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漁協や港に行き、漁師や漁協関係者などへのインタビューをとおして、かつお漁の方法やかつお漁師の苦労・工夫、水揚げしたかつおの消費地やかつおの調理法などについて調べる。</li> </ul> </li> <li>② 調べたことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真や絵、グラフなどをかき込むなどして、分かりやすくまとめるように助言する。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>追究する・まとめる(5時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① かつお漁で働く人の苦労や大変さについて調べる。</li> <li>② かつお漁を続けてきた理由や支えてきた理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 元漁師のインタビュー視聴を通して追究する。</li> </ul> </li> <li>③ 調べ、考えたことを<b>整理・分析する。</b></li> </ul>
<p><b>表現する・ふりかえる(2時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① まとめたことをグループ毎に発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 役割を分担して、グループで協力して発表させる。</li> <li>○ 「かつお漁」は日南が全国に誇れる仕事(産業)の一つであることを押さえる。</li> </ul> </li> <li>② 「かつお漁」についての学習活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ かつお料理の紹介</li> <li>○ 新鮮なかつおを使った料理の例をいくつか紹介して、作ってみるように促して単元を終わる。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>表現する・ふりかえる(2時間)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① かつお漁で「働くこと」について振り返り、<b>漁師の生き方を考える。(前時)</b></li> <li>② 漁師の言葉から<b>自分の生き方にいかしていきたいことをさがす。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価する。感想を書く。 (検証授業Ⅱ)</li> </ul> </li> </ul>

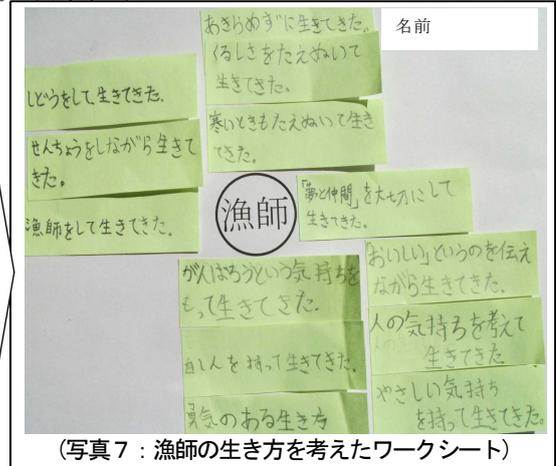
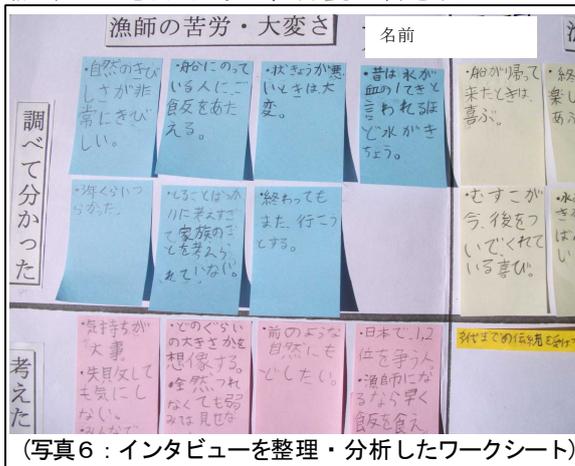
【相違点】

- これまでは、漁港に行き、かつお漁について質問する直接的なインタビューであった。それに対して、本研究で工夫・改善した点は、間接的なインタビュー視聴(VTR視聴)を通して、かつお漁で働く人の苦労や大変さについて考えさせた。また、苦労を乗り越えた喜

- びや働いてきたよさなどについて気が付くことができるようなインタビュー内容に編集した。
- 「生き方教育」の視点をいかして、漁師のインタビューは、「働くこと」や人の生き方について、児童の感じ取ることができるような内容にする。児童全員が、同じ内容のインタビューを視聴する。
- ワークシートに調べ、気付いたことを羅列するだけでなく、付箋紙を並び替えたり、考えたことをまとめて記したりするような整理・分析の学習を取り入れる。
- 自分の生き方にいかしていきたいことを見つけ、これからの学校生活で実践する意欲が高まり、主体的に行動し、やりぬく力を身に付けられるような単元の終末にする。

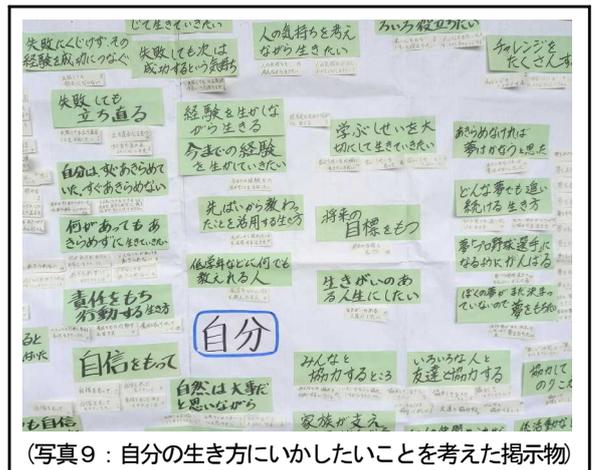
カ 漁師の生き方をまとめるワークシートの工夫

児童は、追究する・まとめるの5時間で、インタビューを視聴した後に(写真6)のワークシートに働く人の苦労や大変さ、苦労を乗り越えた喜びや働いてきたよさなどについて調べ、考えたことを付箋紙に書き換えて、まとめていった。そのワークシート(写真6)を基にして、漁師の生き方を考え、付箋に書き表していった。(写真7)



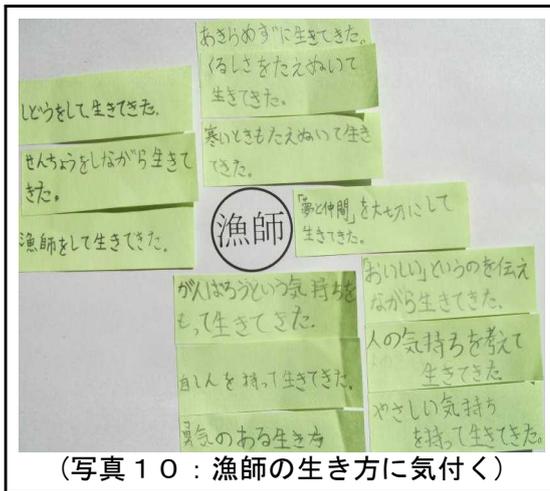
キ 前時の活動をいかすための大型掲示の工夫

児童のワークシート(写真7)の付箋の記述を学級全体としてまとめたものが、(写真8)である。検証授業Ⅱの導入において、(写真8)を提示し、漁師の生き方について考えた方法と同様の方法でワークシートに付箋を貼っていかせた。

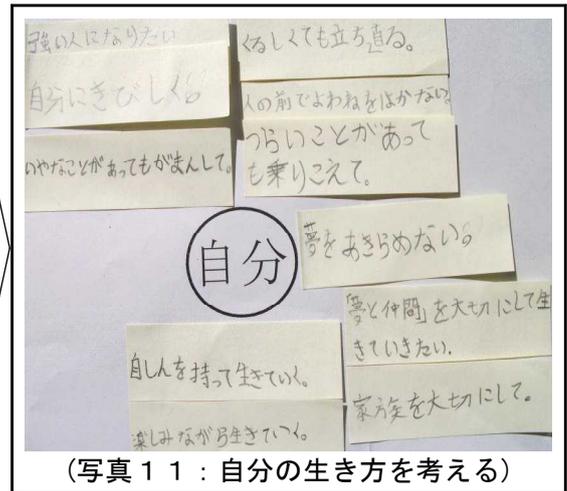


ク 自分の生き方を考えさせるワークシートの工夫

児童は、漁師の生き方を考えたことによって、「働くこと」の苦労、苦労を乗り越えた喜び、船長としての責任などの内容に気が付くことができた。その気付きをいかして、付箋に自分の生き方を考えた内容を書き出させた。ワークシートには、漁師の生き方について考えた方法[p 2-16 写真10]と同様の方法で、ワークシート[p 2-16 写真11]に付箋を貼っていかせる。児童は、漁師の「失敗は成功のもと」や「何があってもあきらめない」、「つらいことを乗り越えていく」などの言葉に感銘を受け、意欲的に自分の生き方を考えていた。



(写真10: 漁師の生き方に気付く)



(写真11: 自分の生き方を考える)

ケ 実践Ⅱの評価

評価の項目…『自分を振り返り、生き方にいかすことができる』  
 児童の具体的な感想[p 2-13 写真5]は、以下の通り(抜粋)である。  
 ○ 今日の学びをいろいろな所で役立てたい。  
 ○ この学習を頭に入れていかしていきたい。  
 ○ 自分の生き方を今まで考えたことがなかった。生き方はいろいろあると思った。  
 ○ 自分の考えをもつことができ、今からいかせることも考えられてよかった。さらに、自分の生活で今日立てた目標を実現させたい。  
 児童の感想を分析すると、全員が、この評価の項目に関連した内容を記していた。全員が、主体的な思いや前向きな思いの感想を記していたということは、自己の生き方について「主体的な思いをもとうとする」ことができたと言える。

また、自分の生き方を考えて付箋(写真11)に記した児童の言葉を(表8)のように、「生き方に役立つ力」の枠組みで分類したところ、総数149枚の付箋の割合が、以下のようになった。

「生き方に役立つ力」の枠組み	付箋の枚数	割合
人や社会にかかわる力	26	約18%
自分を見つめる力	88	約59%
課題を解決する力	5	約3%
将来を見通す力	30	約20%

(表8: 付箋の言葉を「生き方に役立つ力」の枠組みで分類した表)

コ 実践Ⅱの考察 (○…成果、●…課題)

- 「働く人」という「生きた教材」を基に、単元の展開の工夫・改善を行ったことで、「自己の生き方を考えることができるようにする。」という総合的な学習の時間の目標達成を果たすとともに「自分を見つめる力」や「将来を見通す力」を伸ばすことができた。
- 班の話合いから全体への話合いの広がりには、苦手や困難に対しても乗り越えようという意識の広がりを感じられ、「生き方教育」の視点にそった意見が数多く出ていた。
- 付箋に記した児童の意識を「生き方教育」の「生き方に役立つ力」の枠組みで分類し、分析したことによって、評価にいかすことができた。
- 本時の目標であった「自分を見つめる力」「将来を見通す力」に関する記述が8割近くあったということは、教師のねらった意図が伝わり、2つの能力に対する児童の意識が広まったと言える。
- 児童のワークシートなどを「生き方教育」のポートフォリオとして蓄積するだけでなく、これからの実践とも関連させて、継続して活用していく必要がある。また、「生き方教育」の振り返りにいかすことができるようにする。
- 本時の意識の高まりをほかの教育活動へとつなげて、実践化していく必要がある。

(3) 実践化を図るための手立て～実践Ⅲ 「学級活動の時間の指導を中心にして」～  
 実践Ⅱの考察から、「生き方教育」への意識の高まりを日常の実践に結び付ける必要があった。そこで、自分の生き方を考えたワークシートを基に、学校生活での実践を考えさせるために学級活動の授業を行った。

これまで  
今  
これから

ア 実践化を図るための「生き方教育」の実践Ⅲのつながり…活動①～③

活動①	総合的な学習の時間の指導 10月 単元名 漁師の生き方から学ぶ
つなぐ	
活動②	<b>「生き方教育」を取り入れた学級活動の指導 10月26日(検証授業Ⅲ)</b> 1 題材名 「働くこと」について、自分のできることを考え、実行しよう 2 本時の目標 ○ 「働くこと」について想起させ、学校生活での自分を振り返ることによって、これから自分ができていることを考え、実行の計画を立てよう。 3 「生き方教育」の視点…自分をみつめる力を育てること 4 手立て ○ 自分の考えた生き方(写真13)を基にして、学校生活で「働くこと」ができることを考え、(写真14)に記入させる。 ○ 学期末に実践を評価継続カード[p2-18 資料6]で振り返る計画を立て、実践意欲を高める。 5 成果 ○ 自分の苦手なことにも取り組もうとする気持ちをワークシート(写真14)に記していた。
つなぐ	
活動③	国語科の指導 3月 単元名 伝記「手塚治虫」

イ 実践化を図るためのワークシートの工夫

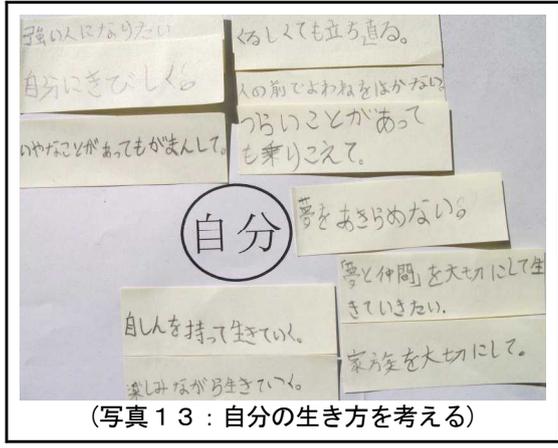
実践Ⅲの授業の導入において、実践Ⅱで自分の生き方にいかしたいことを考えた掲示物[p2-15 写真9]を提示し、「働くこと」や「生き方」についての意欲の高まりが表れた言葉を想起させ、これから日々の実践に結び付けようという意識を高めた。



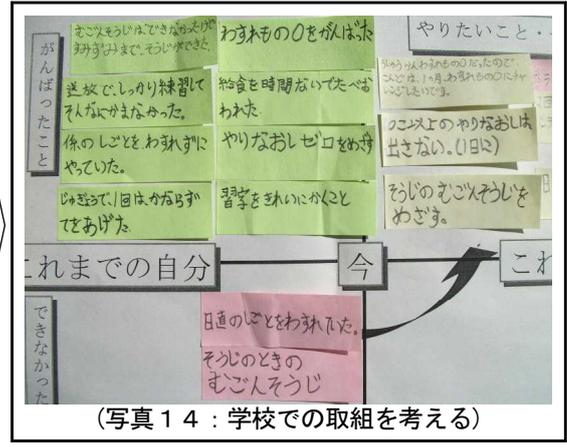
(写真12：掲示物を見て想起する)

児童には、実践Ⅱで用いたワークシート(写真13)を机上に用意させ、自分の記した言葉を見ることによって、自分の生き方にいかそうという気持ちの高まりを感じさせた。

「生き方教育」の進め方[p2-4 図3]と同じ仕組みで、これまでの自分からこれからの自分を考えさせるワークシートにした。(写真14)のワークシートは、左下には、これまでの自分を振り返って、あまりできなかったことを記し、右上には、これから取り組むことを記させた。



(写真13：自分の生き方を考える)



(写真14：学校での取組を考える)

ウ 評価継続カードの活用

実践Ⅲで児童が考え、計画したことを実際に実行できたかどうか振り返らせるために「評価継続カード」を作成した。

カードに記したやるべきことが、しっかりできるようになった場合は、振り返りを終わらせてよいことにした。また、新たに取り組みたいことを書き加えられるようにした。

このカードを用いて振り返ることを児童に意識させることによって、実践意欲の継続につながると考えた。

さらに、児童が、次の学期、次の学年でも継続して振り返り、ポートフォリオにして、次の学年に引き継ぐことによって、「生き方教育」で学んだことを次の学年でもいかしていくことができると思う。

名前[ ]		やることは、増やしてもよいが、本当に自分か			
優先順位		5年		6年	
		2学期	3学期	1学期	2学期
1	積極的に委員会活動やお手	◎			
	伝ボランティアをする。				
3	先生などが話している大事と思	○			
	ったことはメモをとる。				
2	忘れずに最後まであきらめられ	○			
	た仕事はやりとげる。				
(資料6：評価継続カード)					

次の学期、次の学年でも振り返る。

エ 実践Ⅲの考察 (○…成果、●…課題)

- 「生き方教育」を取り入れた学級活動の指導は、実践意欲を継続させることができ、児童が、「働くこと」を意識し、自分のできることを行っていた。
- 計画したこと(資料6)を自己評価することによって、実践にいかされたことを実感するとともに「自分をみつめる力」も伸び、実践意欲の継続につながった。
- さらに、「働くこと」の実践を継続させるためには、これからの教育活動にも「生き方教育」を取り入れていく必要がある。

(4) 「生き方プラン」の見通し ～これからの実践Ⅳ：国語科の伝記「手塚治虫」の指導に向けて～  
これまでの「生き方教育」を取り入れた取組を児童に想起させる。伝記「手塚治虫」の学習において、自分の生き方を作文に記すことにかすことができるようにする。

このような見通しをもちながら、「生き方教育」を実践していくことが大切である。

(5) キャリアシートで振り返る

年間の「生き方教育」を児童に振り返らせ、自己評価によって成長を実感させたり、教師の児童理解にいかしたりするためにキャリアシートを作成し、活用した。

本キャリアシートでは、(資料7)の学年のテーマとして、第5学年の「生き方プラン」から焦点化した2つを記入させた。

これまでの「生き方教育」に関連させた取組を想起させるとともに、感じたことや考えたことを次年度にも引き継ぐことができるようにした。

加えて、教師からのコメントを下に記して、励ますことで継続の意欲を高めた。

本実践において、児童は、キャリアシートの振り返りによって、年間の「生き方教育」に対する意識の高まりを実感できた。

また、このキャリアシートは、教師にとっても、次の学年では、前年度の児童が、どのような取組を行っていたのかを把握でき、「生き方教育」をさらに充実させることができると考える。

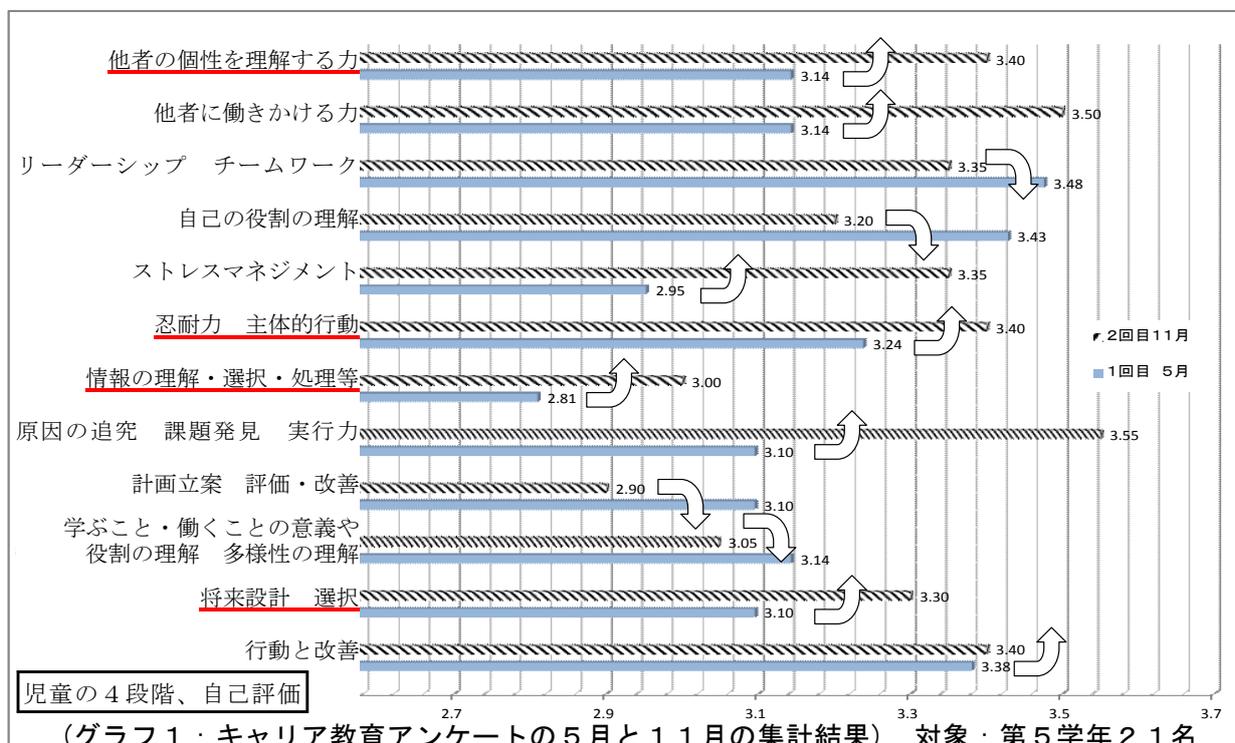
わたしのキャリアシート			
(5)年 名前[ ]			
どんな取組やできごとがありましたか ・そうごうの学習でお米を分けた。	《学年テーマ》 働くこと	どんな取組やできごとがありましたか ・そうごうで、あきらめない心を学習した。	
感じたことや考えたことを書きましよう ・これからもお米を大切にしていきたいと思った。		感じたことや考えたことを書きましよう ・私もあきらめない心を大事にしていこうと思います。	
どんな取組やできごとがありましたか 委員会ボランティアに組み込んだ。		どんな取組やできごとがありましたか	
感じたことや考えたことを書きましよう ペットボトルのキャンプ集めや草取りなどをして、かんきょうに関わることをした。	《学年テーマ》 自分の生き方について	感じたことや考えたことを書きましよう	
(先生から)これからもお米を大切にしようという気持ちをもっと続けるといいですね。わんできょうにかかわる活動もあきらめない心で続けていくことを期待しています。			
(資料7：児童のキャリアシート記入例)			

## VIII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果と課題の分析

#### (1) 児童の実態調査からの変容

キャリア教育アンケートを第5学年の児童(21名)に対し5月と11月に実施した結果が、下の(グラフ1)の通りであった。(目指す児童の姿に対応する4項目を下線で示す。)



- 相手の考えや気持ちを受け止めようとして聞くことができる児童に関連する他者の個性を理解する力は、3.14から3.40になり0.26ポイント上昇した。
- 苦手なことにも進んで取り組むことができる児童に関連する主体的行動の数値は、3.24から3.40になり0.16ポイント上昇した。
- 進んで資料や情報を集めたり、質問したりできる児童に関連する情報の理解・選択・処理等は、2.81から3.00になり0.19ポイント上昇した。
- 自分に必要なものを選択できる児童に関連する将来設計と選択は、3.10から3.30になり0.20ポイント上昇した。

本研究における4つの目指す児童の姿に対応する数値は、全て上昇した。(※ポイントとは、数値の平均である。児童の4段階、自己評価で、最大値4。)

また、情報の理解・選択・処理等の能力については、上昇しているが、3.00ポイントであり、2番目に数値が低い。さらに、ほかの4つの能力のポイントが下降している。

#### (2) アンケート結果の考察

- 目指す児童の姿に関連する数値が向上したことは、「人や社会にかかわる力」「自分をみつめる力」「課題を解決する力」「将来を見通す力」の能力の向上と言える。4つの「生き方に役立つ力」の向上によって、主体的に行動し、やりぬく力も伸びたと言える。
- 「生き方に役立つ力」を短期的にまんべんなく向上させることは難しい。本研究のように「生き方プラン」に基づき、焦点化した教育活動に「生き方教育」を取り入れて実践することが、目指す児童の姿に近づけることに有効である。
- 数値が低かったり、5月より下がったりした能力を伸ばすためには、その能力に応じた焦点化を行い、「生き方教育」を実践していく必要がある。現担任が、現在の児童の実態と更に焦点化した「生き方プラン」を次の学年の担任に引き継ぐことによって、前学年ではどのような取組を行っていたのかを把握でき、「縦の接続」を図ることが有効であろう。

## 2 研究の成果

- 「キャリア教育の推進イメージ」に基づいて、全教育活動を通して「生き方教育」を共同実践できるように計画を立てたことによって、「生き方」に着目した実践に結びついた。また、小・中学校の全職員によってキャリア教育の全体計画を合同で作ったり、発達の段階を中学校まで意識したりして、中学校への接続の意識を「生き方教育」の実践にいかすことができた。
- キャリア教育に関する教育活動を意図的に関連付けた指導計画に基づいて、焦点化した教育活動に生き方教育を取り入れて実践していくことによって、主体的に行動し、やりぬく力を身に付けた児童の育成に迫ることができた。
- 実践研究を通して、「生き方に役立つ力」を伸ばす手立ての工夫・改善をしてきた結果、生き方にかかわる児童の意識が高まるとともに、自己の生き方を考えることができるようになり、児童が主体的に行動し、やりぬく力を伸ばすことにつながった。
- 「生き方教育」を取り入れた実践は、教科・領域等の目標達成に効果的であるとともに、「生き方に役立つ力」を相乗的に伸ばすことができ、児童が、自己の生き方を考えることに有効であった。

## 3 研究の課題

- キャリア教育アンケートの結果から、短期的な取組では、学ぶことの意義や課題を解決する力など十分伸ばすことができなかつた力があつた。将来世代のさらなる育成につながるように、長期的な見通しで「生き方教育」に取り組んでいく必要がある。
- 「生き方」を語る人材の確保やその人材との打合せ内容が難しいという問題がある。したがって、教科・領域等の目標と「生き方教育」で育成する力を明確にし、計画的に打合せをする必要がある。

### 《引用文献・参考文献》

「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」	文部科学省（平成23年5月）
「第二次宮崎県教育振興基本計画」	宮崎県・宮崎県教育委員会（平成23年）
「宮崎県キャリア教育ガイドライン」	宮崎県教育委員会（平成25年1月）
「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」	中央教育審議会（平成23年1月31日答申）
「キャリア教育を創る」	文部科学省 国立教育政策研究所（平成23年11月）
「キャリア教育をデザインする」	国立教育政策研究所（平成24年8月）
「京都市総合研究センター研究員報告書」	（平成23年）